

セラミックレステーションから考えるアメリカ歯科臨床

～歯科技工士に必要な Material Science & Lab Procedure～

Masayuki Saito, RDT

抄録:

世界的な CAD/CAM システムの普及とともに、歯科臨床を取巻く環境は劇的に変化している。高い審美性を求められる前歯部ではメタルフリーレステーションが当たり前のように選択され、機能性を優先させてきた臼歯部においても用いられることが増えてきている。しかし、それらに長期的安定を与えるためにはマテリアルサイエンスを学び、それを基準にマテリアルセレクションを行い、ラボプロシージャを守ることが求められる。

本講演では日本に比べ、セラミックレステーションが主流となっているアメリカに身を置く歯科技工士として、今知るべきマテリアルサイエンスとラボプロシージャを4つのレステーション「PFM, PFZ, FCZ, LDC」の比較を臨床例を用いて解説する。また、マテリアルの可能性を引き上げるための鑲嵌方法をデモにて紹介したい。